

『大阪・関西万博』での納材事例を紹介します



万博でお出迎の西ゲート側の「ミャクミョク」くん

「大阪・関西万博」が4月13日～10月13日まで開催され、大いに盛り上がりましたが、弊社は4つのパビリオンに「丸材」を納入する機会に恵まれました。

「万博リング」が大きな話題になりましたが、弊社が関わった「小さな納材事例」4件を紹介させていただきます。

2025 4.20

『サテライトスタジオ・東』の「困った木」に採用されました

万博取材のテレビ局の情報発信の拠点となる「サテライトスタジオ・東」用の「困った木」の企画に弊社の「商品になれなかった木（丸棒材）」が採用になり、加えて、支障木等の採用材を串刺しにするパイプ柱の穴あけ加工を担当させて戴きました。



「サテライトスタジオ・東」の「困った木」の串だし丸太等

「困った木」は、「商品になれなかった木」や「支障木」として伐採された木等を「串団子」にして、建物の柱として活用する構造になっています。



「関西パビリオン」前の広場に、関西広域連合参加の9府県産の木材で作った「丸太ベンチ」が設置されており、兵庫県産木材分を弊社で担当させて戴きました。



関西広域連合・各府県のベンチが勢揃い

2025 5.15

『関西パビリオン』の兵庫県代表のベンチ材

ベンチには、府県名のプレートが貼られて、来場者赤の球体の主テーマ展示場の建物の出口付近に置かれており、「シンガポール（館名表示板）の前に座って、写真が撮れる「丸太ツール」として使われています。



発見した「丸太ツール」の前で記念撮影

行き先が不明だった「直径60cm×高さ60cmの丸柱丸太（丸棒丸太）」をシンガポール館前で発見しました。



このツール前で、多くの来場者が記念撮影している光景を見て、「役立つ直径60cm」を実感しました。（大口径の円柱材が作れる喜びを噛みしめました）

2025 5.20

自社搬入したモザンビーク共和国館のマスト用丸棒材



船のマストとして採用の「丸棒丸太」

注文を受けた直径17cm・長さ4mの松の丸棒丸太1本を2トトラックで搬入しました。（受注は3月5日で、納期厳守でした）



船型のステージの中央にマストとして立てられており、1本だけでも重要な丸棒材だっただと思っています。

2025 10.13

「大阪・関西万博」で使われた木にお別れに行って来ました



閉幕日に登場したドローンによる「さよならミャクミャク」

後半に盛り上がった「大阪・関西万博」が10月13日で閉幕を迎えました。「2ヶタ・万博入場」を目標していた「円柱材マイスター」は、閉幕日にも入場

し、「納材した木材」にお別れをしてきました。（10回目、閉幕日も当然入場）シンガポール館出口に設置された「丸太ツール」で、案内スタッフとの記念撮影も行い、放送局のサテライトスタジオ東の「困った木」とも最後の記念撮影を行いました。



雑踏の中、各国パビリオンの閉館式も見ることができ、午後10時まで、楽しめました。

2025 8.20

『大阪・関西万博見学、従業員研修』を行いました



「万博リング」の上をみんなで散策

万博リングの上を初めて歩いて、大きさにびっくりするとともに、シンガポール館の白く塗装された丸太ツール前で記念撮影をしました。

「商品になれなかった木」が採用されたサテライトスタジオ・東では、行方不明になっていた「だんご三兄弟」の次男も発見しました。



柱の一番上



引取時にベンチとともに記念撮影

万博が閉幕し、各府県の「丸太ベンチ」を各々引き取ることにになり、兵庫県分を引取りに万博会場に行つて来ました。

引取りの際には、丸太ベンチを軽トラに載せて、会場内の名所めぐりをする機会に恵まれ、「万博の名残り」を存分に感じることができました。



引き取った「丸太ベンチ」は、県内で開催される「木材系イベント」で披露する予定で、今後、皆様の目に止まることを楽しみにしています。